

平成20年4月18日

各位

会社名 住友信託銀行株式会社
代表者名 代表取締役社長 常陰 均
(コード番号 8403)
問合せ先 管理部長 西村 正
(TEL. 03-3286-8187)

平成20年3月期末の有価証券評価損の発生及び平成20年3月期業績予想の修正に関するお知らせ

「その他有価証券」に区分される保有有価証券について、平成20年3月期において減損処理による有価証券評価損計上額が739億円(連結)となる見込みですので、お知らせいたします。

また、上記評価損の計上に伴い、平成20年3月期業績予想を、下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成20年3月期末の有価証券評価損の総額

当社単体において、海外資産担保証券に対し、より厳格な減損処理(508億円)(注)を行うとともに、国内株式の減損(150億円)が発生したことを主因として685億円、連結では739億円を計上するものです。

(単位:億円)

	連結	単体
(A) 平成20年3月期末の有価証券評価損の総額	739	685
(B) 平成19年3月期の純資産の額 (A/B×100)	14,479 (5%)	11,955 (6%)
(C) 平成19年3月期の経常利益額 (A/C×100)	1,701 (43%)	1,345 (51%)
(D) 平成19年3月期の当期純利益額 (A/D×100)	1,038 (71%)	818 (84%)

(注) 海外資産担保証券について、時価が取得原価に対し30%以上下落した全ての銘柄、及びその他の回復見込みが認められない銘柄につき減損処理を行っております。なお、「時価なし」有価証券(取得原価 約600億円)について、適正時価の取得可能性とその妥当性が検証できたことから、「時価あり」有価証券に区分替えし、減損対象に含めております。

2. 平成20年3月期(平成19年4月1日～平成20年3月31日)業績予想の修正

上記1.記載の減損処理の発生を主因に、経常利益及び当期純利益が前回予想を下記のとおり下回る見込みとなったものです。

(単位:億円)

	連結		単体	
	経常利益	当期純利益	経常利益	当期純利益
(A) 前回予想	1,500	900	1,200	800
(B) 今回予想	1,350	800	1,050	700
(C) 増減額 (B-A)	150	100	150	100
(D) 増減率 (C/A×100)	10%	11%	13%	13%

3. 平成20年3月期 配当金予想について

普通株式の期末配当金につきましては、従来予想のとおり、1株当たり8円50銭(年間配当金は1株当たり17円)とさせていただきます。

以上

本資料に含まれる予想は、当社の経営方針・財政状態を踏まえつつ、本日時点で判明している情報に基づいて作成されたものであります。実際の業績、その他の計数は、5月に予定しております平成20年3月期通期決算の確定時点まで、各種要因によって変動する可能性があります。

(参考資料)

1. 平成20年3月期 業績予想の概要

(1) 単体の実質業務純益 6 は、個人向け投信販売手数料や不動産仲介手数料などが計画を下回るものの、マーケット関連収益が債券売却益を中心に計画を上回り、ほぼ前回予想どおりとなる見込みです。
 (2) 海外クレジット関連損失を含めた実質与信関係費用(単体) 12 は、前回予想比150億円拡大となる750億円の発生を見込んでおります。これは、SIVキャピタルノートに加え、CLOエクイティやその他の海外資産担保証券について、より厳格な減損処理を実施したことによるものです。さらに、国内株式の減損150億円が発生しましたが、一方で株式売却益を約300億円計上しました結果、経常利益 2 10 は前回予想比150億円の減少となる見込みです。
 (3) 以上の結果、当期純利益は、連結 3 は800億円、単体 11 は700億円といずれも前回予想比100億円の減少となる見込みです。

[連結]

(単位:億円)

	19年3月期 実績(A)	20年3月期		
		今回予想(B)	前回予想(C)	増減(B - C)
1 実質業務純益	2,154	2,150	2,150	-
2 経常利益	1,701	1,350	1,500	150
3 当期純利益	1,038	800	900	100
4 1株当たり配当金	17円00銭	17円00銭	17円00銭	-
5 連結配当性向	27.4%	30%台半ば	31.6%	

[単体]

(単位:億円)

	19年3月期 実績(A)	20年3月期		
		今回予想(B)	前回予想(C)	増減(B - C)
6 実質業務純益	1,759	1,750	1,750	-
7 与信関係費用	405	100	300	+ 200
8 株式等関係損益	50	50	250	350
9 その他の臨時損益	59	650		
10 経常利益	1,345	1,050	1,200	150
11 当期純利益	818	700	800	100
12 実質与信関係費用(注)	405	750	600	150

(注)「実質与信関係費用」は、「与信関係費用 7」に「株式等関係損益 8」や「その他の臨時損益 9」に計上された費用のうち、内外クレジット投資を目的とした有価証券(債券、株式等)投資に係る費用を加えたものです。

(実質与信関係費用の内訳)

	今回予想	(うち海外クレジット関連損失・主な内訳)	
合計	750	800	
与信関係費用	100	150	CLO組成ウエアハウジングローン (ウエアハウジングローン残高(引当控除後)約350億円)
株式等関係損益	100	100	CLOエクイティ(「時価あり」に変更) (処理後残高 約150億円)
その他の臨時損益	550	550	
		330	SIVキャピタルノート (処理後残高 約10億円)
		80	サブプライム関連RMBS、シンセティックCDO (処理後残高 各々 約130億円、約140億円)
		50	「時価あり」に変更した資産担保証券 (処理後残高 約290億円)
		40	連結子会社(STB Omega)株式の投資損失引当 (Omega保有CLOエクイティ処理後残高 約60億円)

(注)STB Omegaにおいて、保有するCLOエクイティにつき約50億円の減損処理を実施しており、当社連結決算においてもこれに対応する有価証券評価損を計上(一方、単体決算で計上された投資損失引当金は取り崩し)しております。

2. 時価のある「其他有価証券」の評価差額(銀行勘定、減損処理後)

(1)時価のある「其他有価証券」1 の評価差額は、株式 2 含み益の減少を主因として2,550億円減少し、1,100億円となる見込みです。
 (2)海外資産担保証券 6 に係る20年3月末の含み損は、508億円の減損処理の結果、550億円となる見込みです。なお、海外資産担保証券の減損処理後の取得原価総額は約6,650億円(19年9月末比で約500億円減少、同12月末比では約1,200億円減少)となっております。

[単体]

(単位:億円)

	19年9月末 実績(A)	20年3月末 今回予想(B)	増減 (B - A)
1 其他有価証券	3,650	1,100	2,550
2 株式	4,195	1,900	2,295
3 債券	56	0	+ 56
4 その他	488	800	312
5 うち海外クレジット有価証券	282	650	368
6 資産担保証券(注)	226	550	324
7 社債	55	100	45

(注)20年3月末には、「時価あり」有価証券に区分替えしたものの評価損益 約 50億円を含んでおります。

3. 金融再生法開示債権等(銀行勘定・信託勘定合計、部分直接償却後)

(1)金融再生法開示債権 9 は、危険債権 11 が減少する一方で、CLO組成ウェアハウジングローンの区分悪化を主因とした要管理債権 12 の増加があり、残高1,050億円(開示債権比率 8 0.9%)となる見込みです。
 (2)要管理債権以外の要注意先債権 13 は、返済やCLO組成ウェアハウジングローンの区分悪化による減少等の一方で、危険債権からの区分改善等による増加があり、残高7,500億円となる見込みです。

[単体]

(単位:億円)

	19年9月末 実績(A)	20年3月末 今回予想(B)	増減 (B - A)
8 開示債権比率	0.8%	0.9%	0.1%
9 金融再生法開示債権	982	1,050	+ 68
10 破産更生債権及びこれらに準ずる債権	55	50	5
11 危険債権	598	250	348
12 要管理債権	329	750	+ 421
13 要管理債権以外の要注意先債権	7,509	7,500	9
14 総与信	121,852	122,000	+ 148

(用語解説)

資産担保証券	発行体の信用ではなく特定資産のキャッシュフローを裏付に発行された証券化商品(狭義のABSであり、RMBS、CMBS、Cards等が該当)に加え、企業の債務のキャッシュフローを裏付とするCDO(債務担保証券といい、CBO、CLO、シンセティックCDO等が該当)及びこれらを裏付とする再証券化商品(ABS-CDO、SIV等が該当)を含む。
SIVキャピタルノート	資産担保証券や金融債を主な投資対象とする投資運用会社(SIV)が発行するエクイティ性(最劣後)の証券。
CLO	法人向けローンを裏付資産とする資産担保証券。
CLOエクイティ	上記CLOのうち、最劣後部分。
CLO組成ウェアハウジングローン	CLOの組成の目的で、発行体が証券発行までの間に裏付資産を積み上げるための短期つなぎ資金の貸出。
サブプライム関連RMBS	RMBS(住宅ローンを裏付資産とする証券化商品)のうち、北米サブプライム住宅ローン関連資産を主要な裏付資産とするもの。
シンセティックCDO	企業の信用リスクを対象とするクレジットデリバティブを用いて発行された証券化商品。

以上